

府中市生涯学習審議会（平成26年度第2回）会議録

1 日 時 平成26年5月26日（月）午後2時～4時

2 会 場 府中駅北第2庁舎 5階会議室

3 出席者

(1) 委員11名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、木内直美委員、茂田嘉彦委員、
設楽厚子委員、芝 喜久子委員、田野倉晴美委員、寺谷弘壬委員、
三宅 昭委員、山内啓司委員

※川内清文委員、小林 繁委員、澤井幸子委員、鈴木映子委員は欠席

(2) 職員3名

矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、目黒学習推進係長、大木事務職員

4 開会

(1) 会長あいさつ

日頃より生涯学習審議会にご協力いただき、ありがとうございます。くらやみ祭も終わり、5月最終週を迎え、やっと府中の町も落ち着いてきたようです。私は社会教育関係団体の印刷をするため、生涯学習センターへ行ってきた。土日ということもあり、とても賑やかだった。また、受付で宿泊の申込みをしている団体がいたので、受付の職員にどのくらいの利用率か聞いてみると、7月までは満室だということだった。宿泊施設もしっかり稼働しているのだと感じた。館内で行きかう方々の表情がとても生き生きしていたので、人と接することがいかに大切な事かを改めて感じた。

(2) 課長あいさつ

前回、この審議会の進め方について、ご意見をいただいた。今後の進め方については会長を始め、事務局とも調整をしながら円滑に進行していきたいので、ご協力のほどよろしくお願いしたい。

5 連絡事項

(1) 配布資料の確認

- ・平成26年度第1回会議録（案）
- ・みんなの生涯学習 No.115

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

6 協議事項

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

(1) 答申の検討について

(人材育成、人材活用、ボランティアの育成、ボランティア活動の活性化、コミュニティ活動などの推進、学習グループの支援について)

■ みなさまのお手元に答申の検討について、何点か挙げさせていただいた。検討内容については議論していく基として示した。それは、推進計画の体系図の大項目1に該当している。これに関わる広い意見をいただけたらと思う。また、3月までの大まかな日程も事務局と打ち合わせをさせていただいたので、後ほど事務局より報告していただく。

前回は色々なご意見をいただいた。公民館に絞って掘り下げてはどうかという意見、複合的にやらなければならないという意見、少し狭い範囲で文化センターや公民館に関わるものはどうかという意見も出ていた。諮問をしっかりと受けているので、その諮問に沿って答申していこうと思う。そして、今提示した検討内容については、大項目1に当たるが、人材育成は人材活用やボランティアの育成にも繋がる。色々なものに関わって繋がっていくので、色々お話しいただけたらと思う。

■ 今回の検討内容は生涯学習の推進の全てのことに必要で、色々な活動をするグループがあるので、踏み込んだ考え方をしてもいい気がする。

■ たとえば公民館のことについての意見なども出していただき、小委員会で答申に盛り込んでいく。人材育成、人材活用については、今までもファシリテーターの活用の議論等が出ていた問題ではある。

■ 今までの話では、ファシリテーターの活用がないということだったので、人材育成・人材活用については、ファシリテーターの活用場を作ることによって集約されるのではないか。例えば、生涯学習センターは指定管理になっているので、講座の企画などはうまくいっていると思うが、あまり活動が盛んでない公民館などにファシリテーターが絡んで企画していくという流れを作ることが必要だと思う。

■ そうすると生涯学習の分野だけに留まらず、色々な場面で行政や関係団体などとの連携が必要になる。

■ その場合、何かをやろうとしたときに、ファシリテーターの方に負担をかけることになるが、ファシリテーターはコーディネーター作業もしなければならない。

■ 現在のファシリテーター養成講座の卒業者は15人いる。その方たちが今どのよ

うな活用をされているのかを知りたい。

- ファシリテーター養成講座を受けている方は、元々自分でボランティア活動等を行っている方が、さらに活動内容を向上させるために何をすべきかを学びに来ている方が多い。
- ファシリテーター養成講座の修了者らが何をやってきたかを知らないと活用するのは難しい。また修了した結果、得られたものをどう消化できたのか、あまりよく分かっていないし、自分で色々な活動をしているので、他の方と話をする必要がない。本人が既に取り組んでいる活動を一段進めるために受講している方が多かった。
- ファシリテーターとなる方の活動のジャンルや特徴、何をしてきた方なのかなどのデータがないと、どう活動してもらおうか分からない。
- 私もファシリテーター養成講座を受講した。市の方針としては、将来的にはファシリテーターを集めて、もう一回色々な活動を展開させていく、例えば、コミ協でこういうことがやりたいとなったときに、ファシリテーターにも入ってもらって一緒に協力して進めていくと聞いている。普段、団体で活動している方たちは、自分自身がどういう形のファシリテーターの役割を担っているのか分からないようだ。一般的に言われているファシリテーターの役割を団体で実践するのは難しいと思う。それをもう一つ上のランクでの活動を期待されているとすると一歩先に進めないというのが現状である。
- ファシリテーター活用の具体論がない。受講した方たちの分野ややりたいことをリストアップしてもらおうと叩き台として良いと思う。
- ファシリテーター養成講座修了者の中には、コーディネーターレベルの感覚の人もいると思う。
- ファシリテーター養成講座で学んだことは、人と人との繋がりをいかに円滑にするかであった。聞き役やそれをサポートする役など、企画力が問われる勉強だったと思う。得るものを表に出すのではなく、世話焼きおばさんの基本は何かを考えさせられる講座だったが、一方で、行政の考え方や方向性、また市民協働と言うのなら行政も関わりながらファシリテーターを活用して行くつもりなのが見えてこなかった。

行政との協働で活躍している団体もあるので、それらの団体の企画力のある人たちと勉強する機会があれば、ファシリテーターとしてもっと力がついていくと思う。府中市の歴史は子どももお年寄りも興味があることなので、そういう講座をやると良いのではということ私の頭の中にある。

昨日も熊野神社古墳の総会があって市長が来たが、そこでも協働を勧めていたの

で、五小、本宿小、十中など、周りの子どもたちが来て宣伝するようになれば良い。確実に古墳の関連資料をマニュアルどおりに配布して説明するだけでなく、地域から外に出ていくのは必要だと思う。せっかく明治大学の先生方に講義をいただいたので、古墳のような地域の資源を活用していければと思う。

- 前回の審議会で話に出ていたファシリテーター活用の応用編を乗せられるような組織ができると良いと思う。
- 人材というと、学習グループの支援は進んでいるようなので、具体的にコミュニティ活動の推進に反映させていくとなると全部関わってくると思う。ただ2つくらいにまとめないとやりにくい気がする。
- 例えば、ファシリテーターはコーディネーターとしての役割を含めた勉強をしていると思うが、文化センターの公民館講座には学習講座が少ない気がする。そういうところに、勉強してきた皆さんの力が使われると良い。公民館講座に限らず、学習講座に結び付けられるものを作れるか。
- 公民館講座は、文化センターの職員が企画しているという話だった。そういうことを考えると、ファシリテーターが入っていくのは難しい気がする。コミ協に入るのも難しい気がするので、どうしたらうまく活用できるか。
- 公民館の職員が企画している講座は、手が回らなかったり、予算がなかったりで、講座レベルに達していないと思う。そういうところは行政とやってもいいと思う。パソコンやスマートフォンの初級講座などはどうか。やりたいと思っていても、やれてないものはあるのか。
- たくさんある。
- そういうところを拾い上げたら良いと思う。地域の活性化にもなると思う。
- 協働のあり方も難しい。
- あまり難しく考えるとできなくなる。
- きっかけづくりを行政がやってくれないと先に進めない。
- 前回の審議会で、文化センターの職員と生涯学習スポーツ課の職員の会議があり、そこに、審議会で出た意見を伝えられると聞いた。
- ➔ 言えないことはないが、各公民館では夏休みの行事を大切にしている、そこで多くの予算を使うのだが、タイミングとしては今から言うのは難しい。年に2回、担当者会議があるが、それ以外は電話でやりとりしている。やってほしい企画があれば、公民館講座の予算を所管する課として言うことはできる。
- 話を出したときにファシリテーターがいるとレベルが違ってくると思う。
- 生涯学習センターでは、悠学の会の方が講師をしている講座が沢山ある。パソコンなどもシルバー人材センターの方が講師をしている。

- パソコンはそれなりに色々やっている。
- こうやって有効に利用している部分も表に出ている。
- 生涯学習センターは悠学の会を含めて、指定管理者が入っているのでもうまくいっている。公民館について、その流れは議論しなくていいのか。
- 気になったところは話を出していただきたい。
- 一方では市民の力を活用できているところはあるが、もう一方では市民の力をもっと活用できるのではないかと思っている。その中でファシリテーターを学び返しの推進のために、地域における生涯学習の担い手として育成しているが、ファシリテーターの講座の修了後は何に繋がっていくのかが見えてこない。もともと地域で活動しているのでスキルアップのために来ている方が多いと言っていたが、ただ連携の場を求めるのではなく、自分でやっている場所でスキルアップするために来ているという現実がある。もう一方では、そうは言っても、将来的には行政主導ではなく市民による相互支援、他機関との連携を図る人材育成、さらには組織化を目指すと書いてある。市民の力を活用できている部分については、もう十分なので、ここで審議するまでもないと思うので、ファシリテーターの活用についてここで提言をしていってはどうか。学習面の講座が少ないので、そこに市民の力を活用できないかなどは難しいのかもしれないが、提案はしても良いと思う。公民館講座にファシリテーターを入れてはどうか。学校教育に使えないかなど提案しても良いのではないか。ファシリテーターが講座を企画したいと言っても、文化センターはメンバーシップ制なので利用することができないので、ファシリテーター登録制度を作って柔軟に活動できるようにならないかということをご提案したい。
- 確かに提案しておくことが大切で、答申されるとそれについて行政が検討してくれているはずである。
- どの程度活動されているかは分からないが、本来ファシリテーターという仕事は学習のサポーターと繋がって講座や学習の調整することだと思うが、それができていない気がする。学習センターは交通の便も悪いので、文化センターでやれば地域の活性化にもなると思う。
- 確かに近所で初心者入門ができるとうれしい。
- 公民館を利用するには、教育委員会に申請をするものだと思うが、現実的には登録制度があつて社会教育関係団体等が使っている。ファシリテーターが講座をやるときに、毎回教育委員会に申請をするというのは、現実的に難しいと思う。メンバーシップ制なので、外部の方の講座は断られてしまうと聞いたので、そういう方たちには文化センターを使える登録制度を作るといえるのはどうか。
- 実際に教育委員会が許可をしているのか。

- ➡ そうしている。
- 府中の場合は文化センターの管理組織は市長部局だが、その関係はどうなっているのか。
- ➡ 文化センターは複合施設になっているが、高齢者福祉館と児童館は府中市長が許可する。図書館は部屋を貸すことはしていない。公民館は教育委員会の許可に基づいて市民が利用することになっている。
- 現実には、文化センターの管理をしている市の職員が処理をしているのではないのか。
- ➡ 関係課の職員がオンラインシステムの操作権限が与えられており、主催事業であれば優先的に予約をする。その後、空いている日を社会教育関係団体等が2か月先まで予約している。公民館の主催事業であれば公民館の職員が優先的に入れていくので、仮に市民の方が企画して公民館講座をやるときも、主催事業として扱えば優先予約を入れることができる。
- 個人の方が文化センターを使うときはどうしているのか。
- 条例としては教育委員会の許可があれば使える。社会教育関係団体として登録すれば、インターネットで簡易に予約できる。個人では、文化センターを使いたい場合にオンライン予約をするシステムがないので、文化センターの窓口などで教育委員会に申請をするしかない。それは現実的ではない。
- 個人的に使いたいという事例があるのか。
- ➡ 個人の場合は、1か月以内であれば予約することは可能だが、現実的には部屋が空いていない。
- その場合は外部の人を呼んでもいいのか。基本的に社会教育関係団体はメンバーシップ制のようなものと聞いている。
- ➡ 例えば、講師や指導者という名目で外部の方が来るという例はたくさんある。ただし、月謝をとるような教室などは営利行為にあたるとして許可していない。
- 例えば、ファシリテーターが学び返しとして講座を開く場合は、どのようにすればいいのか。
- ➡ 今のところは仕組みがないが、審議会の提言としてその形式をとるとなれば、年間計画に組み入れることも可能だと思う。
- ファシリテーターの団体を作れば良い。
- いずれにしても個人では難しいので、市の考える枠の中に入るような形にもってくれば良い。
- 確かにそうすれば、ファシリテーターの勉強してきた方が活躍する場にもなるし、学び返しにも十分だと思う。

- 市の職員も団体を作って社会教育をサポートできるように仕向けてきたのだと思うが、ファシリテーターの人数もまだ少ないので進めてこなかったのかもしい。
- ファシリテーター養成講座を修了した15人が何かできるようにするためには、どこかが中心になって会議を開いて、今後どうしていくかを話し合わないと先に進まない。それを行政がある程度やってもらえると進んでいくのではないか。グループを作って発展させていく方がスムーズに行くし、1年単位ではなく長期で考えていただきたい。
- そういうグループを作れば、各個人のスキルややりたい事が分かってくる。
- 行政がグループ化支援をするということだが、主管課は生涯学習スポーツ課になるのか。
- まとめ役を生涯学習スポーツ課でやっていただきたい。
- ファシリテーターや公民館など具体的なテーマがあると意見も活発になりやすいので、テーマをはっきりさせた方が良い。
- スポーツ関係の人材の育成や活用はどのようになっているのか。
- スポーツ指導者は、おおかたが小さい時からスポーツをやってきていて、中には指導者養成研修を受けた方が、子どもからお年寄りまでの指導をしている。
 これまで体協が対象としているのは健常者だが、最近障害のある方からも一緒にスポーツ指導を受けたいという声があるが、例えば、知的障害のある子が柔道をやりたいと言っても、受け身がなかなか理解できない。指導者はどう進めていけば良いか悩んでいる。障害のある子どもを指導している特別支援学校の先生の協力が不可欠と考えている。
 施設利用については、ジョギングをするにも自転車との摩擦もあるので、トレーニング施設を利用するようになってきているが、今クローズアップされているのが公園スポーツの進めである。自転車も少ないので、お年寄りも色々なスポーツがやりやすい。自然発生的に教えられる指導者も出てきている。
- 自然発生的な指導者と言っていたが、育成するのではなく、そういう方を探してお願いしているのか。
- はい。経験者の方からの呼びかけで仲間に入る場合もあるし、やりたい方々が経験者を見つけてくる場合もある。皆でやっているうちに誰かが指導者に育っていくケースもある。ラジオ体操は順番にリーダーをしているグループもある。
- 自然発生的な成り立ちの話聞いたが、前にスポーツ指導員や体育指導委員というのが構成されていたが、現在は何と言う名称なのか。
- ➔ スポーツ推進委員。

- 現在は何人くらいいるのか。
- ➔ 定員は25人だが、19人が登録している。
- いわゆるサポーターなのか。
- ➔ サポーター的な役割は、コムスポリーダーやコムスポボランティアと言う組織がある。スポーツ推進委員は昔で言う体育指導委員とスポーツ運営における行政と市民との橋渡し役、連絡調整役というのが位置づけで府中市の非常勤特別職公務員となっている。
- よくコミ協の運動会で来ているのもスポーツ推進委員か。
- ➔ はい。
- 体育協会はボランティアスポーツ団体の集まりで自主活動団体である。
- スポーツ推進委員と体育協会との関わりはあるのか。
- 全くないわけではない。別の組織だが、行事によっては協力し合っている。
- 体操講座などの情報を発信するアンテナ的役割を体育指導委員がやっていた気がする。体育指導委員は各コミ協に1～2名いるので、社会教育の分野でも、そういう情報を発信する人がコミ協の中にいれば、体育と社会教育も相まってうまくいくのではないか。
- 確かに必要かもしれない。そういう役割として自主グループが入っているのではないか。
- 自主グループも何団体が入っている。
- 大きな分野の中で社会教育をやっている方が入っていると良い。
- 昔いた公民館担当に替わるような人が各文化センターに1人いると良い。文化センターが5館しかない時代に、5人くらいしかいなかったが、その内に本庁にまとめられて派遣されていた。そういうシステムが何とかできないものか。
- 確かに貴重な意見である。本当に地域に根差して、社会教育が分かる方が1人入っていると色々な推進にも良い。
- 当時は校長を退職した人が多かった。若い人でも良いので、社会教育を分かる方が入っていれば良い。
- 体育協会のように、文化連が協会になると良いと思っている。自分たちでやろうというというよりも行政にお任せという意識があるので、体育協会のように行かない。
- 始まった当初、文化連の話も聞いたと思うが、文化連をうまく活用できると良い。
- 実際に文化団体では、子ども向けにお茶やお花のお稽古の事業はやっている。ただ一部がやっていて全部が網羅されているわけではない。
- 庭球連盟などは年間事業があるので、そういうのと連携するとうまくいくかもし

れない。

- スポーツの方が身近に感じられる。
- スポーツは、テニスなどテーマがはっきりしているので人が集まりやすい。文化団体も華道や茶道など集まりやすいかもしれない。
- 元々、指導員ではなく、自然発生的に集まることを望んでいるならば良いと思うが、そういう所まで行くチャンスがない人や文化センターでやりたい人もすくってあげなければいけない。特に、年配向けの社会教育も文化センターで必要になってきているが、高齢者福祉館にそういう行事がない。昔の歌を歌うような講座があれば来ると思う。子どもだけでなく、お年寄りも面倒みていただければ良い。
- 各地域の包括支援センターで高齢者相手に健康いきいき体操、中央文化センターでは安立園の方が高齢者を集めて体操したり、熱中症対策などやっている。女性は参加するが、男性はお食事会にしても出席率がすごく低いと聞いているが、府中市ではかなり力を入れていると思う。これから介護認定の見直しでも、判定が厳しくなってくると思う。そういう背景もあってか、包括支援センターでは、少しでも参加して友達になってもらおうと交流できる場に力を入れていると感じる。
- 年1回、障害者のスポーツ大会が行われている。私は社会福祉協議会のボランティア講座で、車いすの使い方や障害者の方との接し方を10回講座で勉強したので、その学んだ分を学び返しではないが、その大会などのボランティアでお手伝いするようにしている。
- 介護施設ではそういう講座を文化センターを会場としているが、その後のフォローが少ない。私は7人でグループを作って鳳仙寮で会場を借りて体操をやっている。
- 安立園の近くでは一軒家を改装して、皆さんがお茶を飲みに来られるようにしている。1日100円でお茶を飲んだり、500円で昼食をしたり、手芸が好きな方はそこで編物をしたりする方が増えている。1人暮らしの方が増えているので、そういう小さいグループで集まっている。
- コミュニティを形成するための講座が開催されたが、NPOボランティアセンター開設以来の大ヒットだった。参加動機は様々だと思うが、コミュニティの場を作ってほしいという方もいるが、作りたいと言う方が増えている。男性の参加については、場所は提供してもらっているが、仲間にならないと参加しにくいと聞いている。人間関係が円滑にいくようなコーディネーターの役割をする職員や、雰囲気づくりなどソフト面の支援の強化が必要になるのではないかな。
シニア層へのスポーツの支援にはどのように取り組んでいるのか。
- 多くのスポーツにシニア部門があるが、ターゲットバードゴルフやゲートボール、弓道などでは教室をやっている。そのスポーツをやったことのない方に体験しても

らうための事業である。

- ファシリテーターは審議会で提言して出来上がったので、かなりの責任がある。私たちがファシリテーターの一人一人と面接をして、あるいは、会議を開いてどういう望みを持って、どういうことをやりたいのかを聞く必要があるのではないか。そのファシリテーターの多くは各種会議等の委員を勤めるなど、熱心な方たちなので、私たちと協力できるよう拡大会議ができればいいのではないか。審議会委員が汗をかいて、市全体の方向性をつけて答申をつくれれば上出来だと思う。
- ファシリテーター養成講座が始まったのも、それぞれの立場で出した提言が現実に生きてきている部分もある。やはり言い続けなければいけない気がする。ファシリテーターの方たちとの話し合い、意見交換をしてみたい。
- ファシリテーターの方に集まってもらって、彼らの意見を聞くという機会を設けても良いと思う。色々なニーズも出てくるし、意見を言える場を作ってあげてはどうか。生涯学習センターでは情報を提供すると言えば良い。今は市民が情報を知らない。
- ファシリテーターとの会が可能かどうか事務局とも相談して進めていきたい。色々な分野から話を聞いて、答申に活かすことはできると思う。

私は料理サークルで子どもたちの料理教室をやっている。自主グループを学び返しの中で上手に活用していくことも必要である。活用してもらっている私たちも地域貢献できている喜びが出てくる。
- 文化センターのPR活動が行き届いていないからだと思うが、自主グループの活動については、広報の会員募集しか載せてないのではないか。どういう自主グループがあるのかが分かれば積極的に参加したいという人がいるかもしれない。
- HPで公開されているし、文化センターや生涯学習スポーツ課の窓口でも社会教育関係団体の一覧を見る事ができる。
- 自主グループで活動している人を活用して講座に役立ててほしい。それを繋ぐ何かが必要なのだと思う。
- 社会教育関係団体の一覧を見ても何をしているのか全く分からない。団体申請書にボランティア活動を記入するところがあっても、ボランティアとしての紹介はしてくれない。広報の会員募集も年1回しかできないので、広報活動できる方法や媒体が減っているように感じる。予算的なものもあると思うが、活用してほしいと思っているなら広報のバックアップをしてほしい。そういう積極的に使ってほしいという団体もあれば、高齢化しているなど自分たちだけでやっていきたいと思っている団体もあると思う。一覧を見てどういう団体か分からないし、お願いするにもしづらい。

- ファシリテーターは形を作っていく方向で良いと思うが、高齢者に対する生涯学習対策を考えていかなければいけない。これからも提言の中にそういうことも含まれれば良いと思う。各文化センターに行こうと思っても歩いていけない、活動したいけど出来ない人たちがいかに参加できるかを考えて行かなければいけない。

7 その他

(1) 今後の審議会の開催日程について

年9回の開催予定。6月、7月、10月、12～3月に審議会を、7月には答申を作るための小委員会を立ち上げる。小委員会は8～10月で開催する。11月は関東甲信越静研究大会があるので休会。

(2) 次回の審議会について

日時：6月23日（月）午後3時～5時

会場：府中駅北第2庁舎 4階会議室

以上